

はじめに

本校は、全校児童89名・6学級の小規模校で、令和4年度には創立150周年を迎えます。校区周辺は山や海が近く、田園が広がり、自然環境に恵まれています。中でも江戸時代に開発された「猿喰新田（さるはみしんでん）」は、地域で大切に保存され、受け継がれており、本市教育委員会が作成した「SDGsの視点に立った地域教材資料集」にも取り上げられています。このように、長い歴史と伝統の下、保護者や地域の方々に支えられながら、子どもたちは恵まれた環境の中で生活しています。

令和元年度・2年度の2年間、福岡県教育委員会及び公益財団法人福岡県学校給食会から学校給食研究指定校としての機会をいただき、これまで本校が培ってきた生活科・総合的な学習の時間の研究と食育を関連付け、研究実践を行うことといたしました。これら二つの教科は、自立し生活を豊かにしていくこと、自己の生き方を探究することを目指す特質から、「生きる上での基本」といわれる食育の理念と深く関わりがあると考えます。

授業を進めるにあたっては、身近な生活に関わる人との触れ合いや交流を通じた体験活動と、子ども同士の話し合いや伝え合いなどの表現活動の相互作用によって構成されますが、全国的な新型コロナウイルス感染症の蔓延により、新しい生活様式による感染対策を講じながら、当初の学習計画の変更を余儀なくされることとなりました。その代案として、これから本格的な導入となるICT機器を活用した調べ学習やオンラインでの授業、ビデオ取材など、身近な地域素材やゲストティーチャーとの出会いの場面を工夫することで、子どもたち相互の気付きや認め合いにつなげるために、試行錯誤しながら実践に取り組みました。また、本年10月に予定していました研究発表会もコロナ禍のために中止せざるを得ない状況となり、十分なまとめができませんでしたが、今後の実践に生かして参りたいと考えております。

終わりに、本研究に際し、福岡県教育委員会ならびに公益財団法人福岡県学校給食会、北九州市教育委員会をはじめ、お世話になった保護者・地域の皆様、生産者の皆様、猿喰新田の関係者の皆様、関係各位に感謝申し上げます。

令和3年2月

北九州市立松ヶ江北小学校
校長 前田 としえ